

2016年度 センター試験 地理B (本試験) 分析

全体概況

試験時間 60分

大問数・解答数	大問数：6題	解答数：35問
難易度の変化（対昨年）	○ 難化 ○ やや難化	○ 変化なし ● やや易化 ○ 易化
問題の分量（対昨年）	○ 増加	○ 変化なし ● 減少
出題分野の変化	● あり	○ なし
出題形式の変化	○ あり	● なし
新傾向の問題	○ あり	● なし
<p>総評 問題数は昨年よりも1問減って35問となった。難易度については昨年在り難しかったため「やや易化」となるが、数年単位で見れば標準的である。新課程になったことでの出題形式の変化や新傾向の問題は特になかったが、例年出題されていた「現代世界の諸課題」が出題されず、代わりに地誌が1問増えて2問の出題となった。</p>		

大問別分析

大問	出題分野・テーマ	配点	コメント
第1問	世界の自然環境と自然災害	17点	地図、グラフ、写真などを使って自然環境について万遍なく出題されたが、頻出の雨温図の問題は出題されなかった。問1は選択肢①②が類似しているために、判定に困った受験生も多かったと思われる。問5の風向の問題は難問であった。
第2問	世界の工業	17点	昨年の農業に対し、今年は工業が出題された。立地の問題を中心として、教科書レベルの基本的な知識と、それに基づく判断力が問われる問題であった。紛らわしい選択肢もなく、解きやすい問題であった。
第3問	都市・村落と生活文化	17点	村落・都市の特徴と住居や宗教など、基本的な知識問題を中心に出題された。問4、問6は易しく、落とせない問題。問1の都市人口率の問題は、アルゼンチンとマレーシアで迷った受験生も多かったと推測される。
第4問	ヨーロッパの地誌	17点	ヨーロッパについて幅広いテーマで出題されたが、経済的知識が問われる問題がやや多かったために苦しめられた受験生もいたのではないかと推測される。問3、問4は難問で、特に問4は細かい知識が必要とされたため、受験生にとってかなり厳しい問題であったと思われる。
第5問	インドと南アフリカ共和国の地誌	14点	インドと南アフリカ共和国というあまり見られない組み合わせでの地誌問題であった。ただし問われた内容は基本的なもので、落ち着いて取り組めば正答できる問題であった。問4は歴史的知識も必要とされ、やや難しい問題だった。
第6問	岩手県北上市とその周辺の地域調査	18点	センター試験で定番の新旧地形図比較問題や断面図の問題は出題されず、代わりに鳥瞰図の問題が出題された。問題はいずれもオーソドックスで、解きやすい問題が出題された。